

守る会ホームページ！！ <http://shirakawa-go.com/~ogimachi>



白川郷荻町集落の自然環境を守る会

発行 平成25年 8月号

荻町合掌集落の景観に関する懇談会！！

7月26日夜、荻町公民館において見出しの会を開催しました。これは平成19年にスタートした会で、各種団体の代表者が集まり、荻町の景観の維持改善に努めることを目的に話し合いを進めています。通算7回目の開催となり、民宿連絡協議会、土産物組合、飲食店組合、見学施設連絡協議会、観光協会、合掌造り民家園、役場観光振興課、教育委員会文化財係、守る会より、合計16名の皆さんにご参加いただきました。以下にその概要を掲載いたします。

◎各団体の取り組み状況

○飲食店組合：ソフトクリームのもニュメントやポスター、メニューの外への掲示等について継続審議。色を変えたり大きなもニュメントから小さなものに、設置場所の工夫や閉店時は中にしまい込むという取り組みを継続。ポスターやメニューは派手にならず、できるだけ黒字や目立たないものとしているが、外国人対応は写真等での掲示が必要。

○土産物組合：交通対策と関わり、卸業者の車両による景観阻害について、各店舗で業者の進入時間や駐車場所について協力を呼びかけている。プライスカード（価格表示の札）がどうしても派手。景観に配慮した白川郷にあった茶色や合掌の形をした共通のカードを作成の予定。

○見学施設連絡協議会：これ以上看板を増やさないことや取り替え時期がきた看板については、より景観にあったものとなるよう互いに研究していくことを確認しあっている。外国人に対応した看板の設置については、今後検討する必要があるか。

○民宿連絡協議会：毎年役員で荻町区内の巡視を行っている。今年はこれから行う予定。合掌の棟、カンザシやネソカクシをしっかりつけるよう話をしている。

○守る会：昨年度は交通問題に関わる取り組みに重点。荻町交通対策委員会の取り組みとなるが、守る会も参画し取り組んできた。昨年の大寄合での荻町住民の決断と今まで取り組みを継続してきた先輩諸氏に感謝。今後はその実現にむけた取り組みを着実に進めたい。「世界遺産の玄関口である小呂地区との景観に関わる連携・協議」という課題を昨年の懇談会でいただいた。そこで、合掌造り民家園に今回参加いただいた。なお、「看板を無くする運動」については手つかず。今後の継続課題。

◎景観に関する意見交流

- ・教育委員会より近代和風建築の話があり、明治以降の合掌造りも入るとのことだが。
- ・荻町の3分の1程の合掌は明治以降の建築。養蚕業との関わりを含め、明治のものとしてそれ以前のものでは、規模や工法の違いがある。白川郷らしい特色を示す建築を取り上げるようにしていきたい。
- ・交通網の発達とともに白川が通過型観光地になりつつあるのか。村でも宿泊者を増やす、おもてなし、特産品開発、情報発信等、世界遺産レベルでの観光産業に重点をおいた施策を進めようとしている。
- ・ホテル反対の張り紙が貼られている。景観上いかがなものかという声も聞くが。
- ・行政が進める企業誘致のひとつにホテルがあり、民宿連絡協議会の中でもそれに対しての意見が。
- ・今までの説明に加え、役場からのさらに具体的な情報提供が必要か。
- ・この会は景観のことを語る会なので、その観点から考えて欲しい。また、守る会はホテル誘致に関してはどのような立場でいるのか。
- ・守る会の立場では、世界遺産荻町集落内及び集落から見える場所にホテルが建つのであれば、景観保全の立場から先頭にたって反対しなければいけない。しかし、それ以外の場所については、守る会が荻町区下部組織である点からも、静観の立場にあるといえる。ただ、民宿連絡協議会の皆さんは守る会の大切な仲間であり、後継者問題や民宿経営に対する未来への不安の払拭、合掌家屋を守りこれからは元気に仕事を続けていただくための方策を共に考えていく立場にあると考えている。
- ・反対運動には静観の立場であるが、集落内での外への張り紙行為については、景観保全の立場からよろしくない。たとえ中に貼ってあっても外に見えることを意図して貼ってあるのならば同じこと。



【各団体より集まった16名で意見交流】

- ・確認だが、張り紙の文言についてはどうなのか。
- ・文言については、守る会でどうこう言うことではない。要は外観を変える行為、景観を壊す行為については全て抵触してくるということ。集落内での政治ポスターもしくり、お店の看板やお品書きのようなもの、ソフトクリームのもニュメントもしくり、同じレベルで、張り紙も同様に抵触してくる。
- ・外国語表記の看板は、世界遺産の景観上どこまでをよしとするのか。
- ・村でサイン看板に外国語表示を入れて作り直しをした。守る会でも審議し必要最小限に留めた。
- ・最低限英語表記は必要か。多くは看板以外の地図やパンフで対応すべきでは。
- ・他の観光地とは違う。世界遺産として諸外国の先例に学ぶことも必要。情報収集を。
- ・先月の定例会で、教育委員会より松の木の虫害が白川に入ってきていると聞いたが。
- ・マツノザイ線虫病といって、マツノマダラカミキリ虫を介してマツノザイ線虫が松の木に入り木を枯らしてしまう。線虫は1mm程の大きさで、一度木に入ると治療方法は無い。予防のみ。県の樹木医の診断や指導を受けている段階だが、集落内の松の大木や城山等の松の一部に害がみられる。線虫を付着したカミキリムシは6、7月に羽化し松の枝を食べる。予防として、樹幹注入剤で保護するのが有効だが、松ヤニの出ない樹液流動停止時期(11月から3月)にしかできない。今の時期は無理。
- ・予防しか方法がないとのことなので、害を受けた樹木の撤去と秋の樹幹注入にむけ、ぜひ教育委員会にも積極的なPRや樹木医の斡旋、費用等の情報提供をお願いしたい。
- ・先月の区長会文書に、特定外来植物「オオキンケイギク」「オオハングンソウ」の駆除協力のチラシが入っていた。家の周りで見つけたのは抜く努力をしているのだが。
- ・インターネットに荻町集落内にオオハングンソウが咲いている写真と「世界遺産に外来植物は似合わない」という文言が掲載されていた。白川のイメージを下げないためにも、駆除の努力をしなければ。
- ・妻籠の保存会の広報誌に、オオキンケイギク駆除に保存会が努力する記事が掲載されていた。守る会でも景観保全にむけた事業の一つとして行ってはどうだろう。
- ・白川村は、飛騨市と飛騨森林管理事務所の三者で県立天生自然公園に外来種が入らないようオオハングンソウを中心に撲滅運動を行っている。根こそぎ抜き取って持ち帰り焼却するという大変な仕事。オオキンケイギクも黄色い綺麗な花を咲かすのだが、植生が強くとちらも在来種を駆逐して繁殖する恐ろしさを持つ。見つけたら役場への報告と共に周りの皆さんで声を掛け合って駆除の協力をお願いしたい。根が強く短期間での撲滅は難しい。だからこそ住民の根気のある努力でご協力を。
- ・教育委員会より話のあった里山の維持管理調査。40周年の座談会で出た課題、去年の守る会の調査を受けての早急の取り組みに感謝。守る会でも協力していきたい。
- ・観光協会も、景観保全に貢献できる道を模索している。協会が大切にすべきことは、まず世界遺産を守ること。それによって協会員の利益を守り、村づくりにつなげていくことだと考えている。
- ・合掌造り民家園として初めて会に参加させていただき、皆さんが考え悩み景観向上の取り組みを進めていることがよくわかった。この生の声を持ち帰り自分たちの向上につなげたい。

◎今後の取り組みについて

- ・話し合いだけに終わらせないよう、会議内容を記録にまとめ守る会委員、懇談会参加者に配付。各団体とも現在の取り組みを継続し、次回にむけ一歩でも二歩でも進展できるよう努力を。 [文責：和田]

守る会活動スローガン ～守る・くらす・つなぐ～

- ①守る：住民憲章を基盤とした、世界遺産である合掌家屋と農山村の景観保全
- ②くらす：結の精神が根ざした共同体と、景観に調和した豊かな住民生活の向上
- ③つなぐ：故郷から学び、国内外の交流から学び、未来への継承者を育成

＝ 7月の活動報告 ＝

- 7月 3日 村道舗装現地確認(役場・区長・会長)
- 7月 8日 合掌家屋保存組合総会
- 7月 10日 7月定例会・荻町集落内めぐり
- 7月 13日 ねそ7月号配付
- 7月 16日 旧寺口家草刈り作業
- 7月 18日 旧寺口家清掃作業
- 7月 20日 西村幸夫町並み塾 in 福井(会長)
- 7月 26日 荻町合掌集落の景観に関する懇談会
- 7月 27日 屋根葺き技術講習会(合掌家屋保存組合主催)

＝ 区民の皆様へ ＝

建物や土地などの現状を変更する場合は許可が必要です。必ず現状変更申請をして下さい。申請書は守る会定例会の2週間前までに、各組委員に内容を説明の上、委員又は財団に提出して下さい。このことは、遺産の保全と未来への継承のためとても重要なことです。皆様のご理解ご協力をお願いします。
[9月の定例会は10日(火)公民館にて開催を予定しています。]

☆8月の協議事項(現状変更申請に関わって)☆

- ****・・・車庫の屋根葺替え
- ****・・・北側浴室のサッシ取替え
- ****・・・池の改修
- ****・・・トタン壁をササラ下見板に変更
- 白川郷夜間照明実行委員会・・・常設ライト新規敷設